

海水と淡水を使った濃度差発電

山口大学 工学部

いま、わたしたちの生活は、電気エネルギーなしにはどうにもなりません。明かりもつきませんし、テレビも見られませんか、電話も使えません。冷蔵庫の食べ物はくさり、マンションなどではポンプを使っているのです、水道も出なくなります。

発電所では、さまざまなエネルギーを「電気エネルギー」という形に変えることで電気を作っています。火力発電や原子力発電は熱エネルギーを電気エネルギーに変えています。ですが、これらの発電方法は、地球温暖化とか自然環境を変えてしまったりという、地球環境への影響が心配されています。だから、自然の力を使った「発電」が少しずつ増えています。

自然の力を使えば、石油のようにいつかなくなるという心配がないし、地球環境にもやさしい。一番有名なのが、空にかがやく無限のエネルギー、太陽を使った「太陽光発電」です。

他にも、風の力を使った「風力発電」があります。どこかで大きなプロペラを見たことはないかな。

「塩分濃度差発電」は海の水（塩水）と川の水（真水）の濃度の差を使って、電気を作ります。

塩水と真水がタンクから装置に入るだけで、電気が出てきます。実際に電気を作るところをぜひ見に来てね。

